

経営体の概要

- ・所在地：山梨県甲州市、山梨市
- ・経営体名：JAフルーツ山梨ハウス部会
- ・栽培作物・作付面積：ぶどう・35ha、もも・2.6ha
- ・部会員数：約220名（令和6年3月現在）

導入技術

- ・ウインドリーマー（(株)誠和製）
ハウスの自動の谷巻取り換気装置
- ・テンプホーク（フォックステック(株)）
環境モニタリング装置



○ウインドリーマー
自動の谷巻き取り部分



○テンプホークデバイス

導入経緯

- 果樹の施設栽培は、1月から加温開始し5月頃から収穫出荷するため、高収入が見込めるが、外気温が上昇する3月～4月にかけて換気忘れなどによる高温障害の発生が課題であった。
- 特に、近年は、異常気象などの影響により、急激に外気温が上昇し、高温障害を受ける園が多く発生していた。
- そこで、高温障害の発生を回避するため、ウインドリーマーとテンプホークを令和3年度以降順次導入をすすめている。
※ 令和3～5年度 やまなし未来農業応援事業

取組の特徴・効果

- ウインドリーマーを導入した部会員の園では高温障害の発生が全くなかった。また、施設の開け閉めの労力が減少し大幅な省力化につながった。
- テンプホークの導入により、生育障害の起きる温度（極端な高温、低温）になると連携したスマホからアラームがなるため、施設内の急激な気温の変化に対応できるようになった。
- 施設内の環境データを把握することができるようになったため、加温体系に準じた温度管理を徹底でき安定生産につながった。
- 今後、優良園の温湿度データの解析など、個々の農家の蓄積された温湿度データの活用方法の検討が必要である。
- 開閉に伴う労働時間の削減（代表的な事例）
222 h/10a ⇒ 112 h/10a